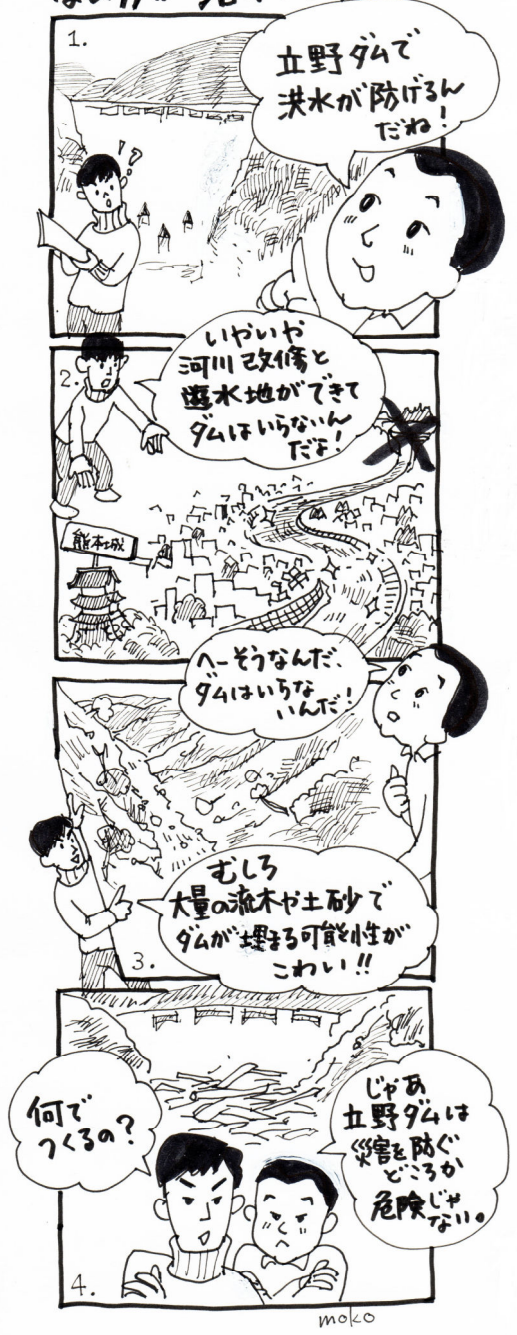
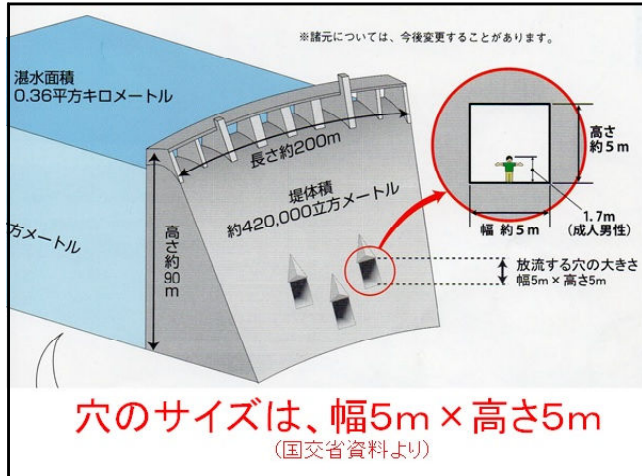


立野ダムがなくても
ない方が治水できる!



立野ダムを建設する必要はありません!!

●洪水時、立野ダムの穴が流木や土砂、岩石でふさがり、洪水調節できない危険な状態になります!



立野ダムは、白川上流の阿蘇・立野峡谷に国土交通省が計画した、高さ90mの洪水調節専用の「穴あきダム」です。立野ダムには、ゲートのない3つの穴がダムの下のほうに開いていますが、その幅は5mしかありません。しかも、穴の内部に流木や岩石などが入らないように、ダムの穴の上流側は、すき間わずか20cmのスクリーン(柵)で覆われます。これでは洪水時にダムの穴は、明らかに流木や土砂、岩石などでふさがります。

洪水のときにダムの穴がふさがると、洪水を下流に流すことができず、洪水調節ができない危険な状態になります。ダムは短時間で満水となり、流木の撤去もできません。そのような状態でダムのまわりで土砂崩壊が起きれば、あふれた水が津波となり、一気に下流を襲います。

●熊本地震前に立野ダムができていたら、ダムは土砂や流木で埋まり、災害をひき起こしていたはずです!



阿蘇大橋方面から長陽大橋方面を見た、熊本地震前後のダム水没予定地の写真です。脆弱な火山性の地質であるため、大量の土砂や樹木が崩れ、その後の大雨で白川を流れ下りました。もし立野ダムができていたら、幅5mしかない立野ダムの穴は流木や土砂、岩石などでふさがり、ダムは埋まり、流域を災害から守るどころか、災害をひき起こしていたはずです。立野ダムがなかったからこそ、流木も土砂も白川を流れ下ったのです。

2012年7月の九州北部豪雨で浸水被害を受けたのは、未改修の場所だけでした。その後、河川改修が進んだおかげで、九州北部豪雨クラスの大洪水が来ても白川はあふれません。

◇詳しい資料はこちらをご覧ください→<http://stopdam.aso3.org>
立野ダムによらない自然と生活を守る会 中島康 電話 090-2505-3880